

トーキョーワンダーサイト レジデンス成果発表展
トーキョー・ストーリー2014

【第1期】 2014年5月3日(土・祝)～6月8日(日)

TWS 本郷 / TWS 渋谷

【第2期】 2014年6月14日(土)～7月21日(月・祝)

TWS 本郷 / TWS 渋谷

【第3期】 2014年7月26日(土)、27日(日)

TWS 渋谷

— 東京や世界の街を舞台に滞在制作を行った、国内外のクリエイター総勢 20 組による成果発表展

トーキョーワンダーサイト(TWS)は、東京における世界中のクリエイターが集まる国際的なクリエイティブ・プラットフォームとして、また東京から海外へ新しい創造力を発信する場として、様々な文化事業を展開しています。2006年より開始したレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス(GiR)」では、東京や海外の派遣先を舞台に、多様なジャンルや国籍のクリエイターたちが、実験的な創作活動を行ってきました。本展では2013年度レジデンス・プログラムに参加した100名にのぼる国内外のクリエイターたちの中から、総勢20組によるレジデンス滞在制作の成果を、それぞれが紡いだ物語として3期にわたり展示します。

展覧会概要

- 展覧会名: トーキョー・ストーリー2014
- 会期: 【第1期】2014年5月3日(土・祝)～6月8日(日)
 【第2期】2014年6月14日(土)～7月21日(月・祝)
 【第3期】2014年7月26日(土)、27日(日) ※TWS 渋谷のみ
- 会場: トーキョーワンダーサイト本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)
 トーキョーワンダーサイト渋谷(東京都渋谷区神南 1-19-8)
- 開館時間: 11:00～19:00 (最終入場は30分前まで)
- 休館日: 月曜 (ただし5月5日、7月21日は開館)、5月7日
- 入場料: 無料
- 主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
- アーティスト: 【第1期】遠藤一郎、加瀬才子、永岡大輔、松本 力、mamoru、山本良浩 (以上 TWS 本郷)
 川久保ジョイ、福居伸宏、ほか(以上 TWS 渋谷)
 【第2期】オル太、佐藤未来、友政麻理子、中島佑太、二藤建人、潘 逸舟、三原聡一郎(以上 TWS 本郷)
 小沢 剛、栗林 隆、イルワン・アーメット&ティタ・サリナ、パリバルタナ・モハンティ、ほか
 (以上 TWS 渋谷)
 【第3期】中澤沙央里(TWS 渋谷)
- 提携都市/機関: イアーブ(スイス・バーゼル)、ベルリン市/クンストラウム・クロイツベルク/ベタニアン(ドイツ・ベルリン)、マタデロ・マドリード/スペイン文化活動公社(スペイン・マドリード)、ロンドン芸術大学(イギリス・ロンドン)、韓国国立現代美術館/コヤン・アート・スタジオ(韓国・ソウル)、アーツ・イン・レジデンス台北/トレジャーヒル・アーティスト・ヴィレッジ(台湾・台北)、アジアリンク/ヴィクトリアン・カレッジ・オブ・ジ・アーツ(オーストラリア・メルボルン)、夕張市(北海道)



Kunstraum Kreuzberg/Bethanien



AC/E ACCIÓN CULTURAL ESPAÑOLA



국립현대미술관 NATIONAL MUSEUM OF CONTEMPORARY ART, KOREA



Asialink The University of Melbourne



FACULTY OF VCA & MCM

ARTS VICTORIA



ウェブサイト: <http://www.tokyo-ws.org>

プレス内覧会: 【第1期】5月2日(金)15:00～18:30 (TWS 本郷/TWS 渋谷 同時開催)

【第2期】6月13日(金)15:00～18:30 (TWS 本郷/TWS 渋谷 同時開催)

※会期中、アーティスト・トーク等のイベントを開催いたします。詳細が決まり次第、TWS ウェブサイトにて発表いたします。

<お問い合わせ >

〒150-0001東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山SOUTH棟3F

公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト 広報担当: 千賀・石川

TEL: 03-5766-3732 E-mail: press@tokyo-ws.org

展覧会について

2013 年度も TWS の CiR プログラムを通じて、無数の物語が生まれました。本展に参加する作家のうち、半年から 1 年という長期滞在型の「国内クリエイター制作交流プログラム」に参加した 3 名の若手アーティストは、社会や都市、自分の生に対して多様な視点から語り、今日に生きる私たちの問題意識を明示します。「海外クリエイター招聘プログラム」でアジアより招聘された 2 組のクリエイターは、アジアで表現することのリアリティをこの東京でも探求しつつ、同時期の滞在者や一般の人々を巻き込みながら、相互の対話や共鳴、干渉を反映したプロジェクトを展開しました。

また「二国間交流事業プログラム」にて、バーゼル、ベルリン、ロンドン、マドリード、メルボルン、ソウル、台北といった都市へ派遣された日本人のクリエイターたちは、海外の空気に触れ、その都市で起こる様々な出来事や異文化の日常に対峙することで、それぞれのストーリーを紡ぎだし作品へと転化させました。「アーティスト・イン・タ張」に参加した 4 名は、地域コミュニティとのかかわりを通じてタ張の歴史的背景と現在、そして未来を見つめることで、現代の様々な都市へと通底する問題意識へと発展させました。そしてこの成果発表展のエピローグには、唯一音楽分野から参加した国内クリエイターでヴァイオリニストの中澤沙央里が公演を行います。

クリエイターたちが描き出す多様な物語は、時に鑑賞者自身の物語と結びつき、新たなストーリーを生み出してゆくことでしょう。

参加アーティストプロフィール

【第 1 期】 トーキョーワンダーサイト本郷

■遠藤一郎 | Ichiro Endo (アーティスト・イン・タ張、2013 年 7 月～8 月滞在)

1979 年生まれ。未来美術家、island JAPAN プロデューサー、デザイナー、DJ。車体に「未来へ」の文字と、各地で出会った人々の夢が書かれた『未来へ号』で車上生活をしながら全国各地で「GO FOR FUTURE」のメッセージを発信し続ける。主な参加イベントに「TWIST and SHOUT Contemporary Art from Japan」(BACC、バンコク)、「TEAM 17 わくわく SHIBUYA coordinated by 遠藤一郎」(TWS 渋谷、2011)、「愛と平和と未来のために」(水戸美術館、2010)、「六本木クロッシング 2013」(森美術館)等。『美術手帖』(美術出版社)にて連載中(2008～)。

■加瀬才子 | Saiko T. Kase (国内クリエイター制作交流プログラム、2013 年 4 月～2014 年 3 月滞在)

シカゴ美術館付属美術大学大学院(SAIC)から全額奨学金を支給され、2011 年修士号(MFA)取得。千代田芸術祭遠藤水城賞(2013)、MacDowell Colony Fellowship(2013)、BEPPU ART AWARD 2012 グランプリ等を受賞。近年の展覧会に「3331ALLART!」(3331 Arts Chiyoda、2014)、「Life-time Project」(大分、2012)等。土、髪、種などの有機的素材を頻用し、自身の肉体を使いながら、繰り返しや、その他時間に対する観点を探り、生と死の接点を模索。

■永岡大輔 | Daisuke Nagaoka (アーティスト・イン・タ張、2013 年 7 月～8 月滞在)

1973 年生まれ。2003 年英国ウィンブルドン・スクール・オブ・アート美術専修修了。主な展覧会に「永岡大輔 AWESOME レジデンス報告」展(TWS 本郷、2007)、「RING WONDERING」(hpgrp GALLERY TOKYO、2009)、「VOCA 2012」(上野の森美術館、2012)、「第 1 回 500m 美術館グランプリ展—New Cities」(500m 美術館、北海道 2013)等。また、ロッテルダム国際映画祭(2012)、ヴァンクーバー国際映画祭(2011)等にも招待されている。

■松本 力 | Chikara Matsumoto (アーティスト・イン・タ張、2013 年 7 月～8 月滞在)

1967 年生まれ。1991 年多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン専攻を修了。ドローイングを撮影するアニメーションなど絵画による映像表現を目指す。近年の主なグループ展に「NEXT - TWS10 年!」(TWS 渋谷、2011)、「Alterspace - 変化する、仮設のアートスペース」(アサヒ・アートスクエア、2014)、「オバケとパンツとお星さま—こどもが、こどもで、いられる場所」(東京都現代美術館、2013)等がある。

■mamoru (アーティスト・イン・タ張、2013年7月～8月滞在)

1977年大阪生まれ。ニューヨーク市立大学音楽学部ジャズピアノ科卒業。普段あまり気にとめない音を「聴くこと」から知りうる世界を提示。近年の展示に「MEDIA/ART KITCHEN」(アヤラ美術館、マニラ、2013)、「十和田奥入瀬芸術祭」(十和田市、2013)、「虹の彼方」(府中市美術館、2012)、「再考現学」(国際芸術センター青森、2011)など。「EXPERIMENTAL SOUND, ART & PERFORMANCE FESTIVAL」(TWS本郷、2010)最優秀賞受賞。

■山本良浩 | Yoshihiro Yamamoto (国内クリエイター制作交流プログラム、2013年10月～2014年3月滞在)

1981年生まれ。2012年に東京藝術大学先端芸術表現科を修了。近年の主なグループ展に「イメージフォーラム・フェスティバル」(新宿パークタワーホール、2011)、「第15回文化庁メディア芸術祭」(国立新美術館、2012)、「アート・アワード・トーキョー丸の内」(行幸地下ギャラリー、2012)がある。「イメージフォーラム・フェスティバル 2011」ヤングパースペクティブ部門にノミネートされたほか、「第15回文化庁メディア芸術祭」アート部門大賞(2012)を受賞。

トーキョーワンダーサイト渋谷**■川久保ジョイ | Yoi Kawakubo (国内クリエイター制作交流プログラム、2013年4月～2014年3月滞在)**

1979年、スペイン、トレド市生まれ。筑波大学卒業。デイトレーダーの職を経て制作活動を始める。信仰や現代文明を扱った写真作品や、メディウムそれ自体、及び言語とその関係性をテーマにした作品を制作している。主な展覧会に「Sovereign Asian Art Prize 2012-2013 ファイナリスト展」(エスパス・ルイ・ヴィトン・シンガポール、2013)、個展TWS-Emerging177「Speak the unspeakable」(TWS本郷、2012)等。

■福居伸宏 | Nobuhiro Fukui (二国間交流事業プログラム<バーゼル>、2013年5月～7月滞在)

1972年、徳島県鳴門市生まれ。主な個展に「B」(Parzelle403、バーゼル、2013)、「undercurrent」(TKG Editions 京都、2011)等、主なグループ展に「東京画」(TWS渋谷、2007)、「Concrete - Photography and Architecture」(ヴァンタートゥール写真美術館、スイス、2013)等。2008年BMW Paris Photo Prizeの審査員特別賞を受賞。

【第2期】 トーキョーワンダーサイト本郷**■オル太 | OLTA (二国間交流事業プログラム<ベルリン>、2013年10月～2014年1月滞在)**

オル太は1983年～1988年生まれの7名(井上徹、梅田豪介、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi)からなる表現集団。全員、多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻出身。「第14回岡本太郎現代芸術賞」岡本太郎賞(川崎市岡本太郎美術館)等受賞。第4回展覧会企画公募入選(TWS本郷、2010)。近年のグループ展に「内臓感覚―遠くて近い生ノ声」(金沢21世紀美術館、2013)等。

■佐藤未来 | Miku Sato (二国間交流事業プログラム<マドリッド>、2013年11月～12月滞在)

1985年生まれ。2009年に武蔵野美術大学を修了。生活のなかで出合った違和感と風景をきっかけに、新しいコミュニケーションとその視覚化を試みる。その場所が持つ環境、歴史、人々、文化等の地域性と共に、様々な方法でサイトスペシフィックなプロジェクトを展開。近年の主なグループ展に「明るい部屋」(山手234番館、2012)等。

■友政麻理子 | Mariko Tomomasa (二国間交流事業プログラム<台北>、2013年9月～11月滞在)

1981年生まれ。2012年に東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程を修了。コミュニケーションの過程にひそむ「型」に焦点を当て、作品制作やワークショップを行う。近年の主な個展に「與父親共餐」(寶藏巖国際藝術村、台北、2013)、「クリテリオム 85 友政麻理子展 “wadori”」(水戸芸術館クリテリオム、茨城、2012)等。2013年「VOCA賞」入選。

■中島佑太 | Yuta Nakajima (二国間交流事業プログラム<マドリッド>、2013年11月～12月滞在)

1985年生まれ。2008年東京藝術大学美術学部卒業。ワークショップによる作品制作に取り組む。近年は、社会事業と連携したワークショップの企画・実施や幼稚園での活動も行っており、「今日の看板公園」(ARCUS Projectアーティスト・イン・スクール 2013)等を実施している。主なグループ展に「3・11とアーティスト:進行形の記録」(水戸芸術館、2012)等。

■二藤建人 | Kento Nito (二国間交流事業プログラム<ソウル>、2013年5月~8月滞在)

1986年埼玉生まれ。彫刻、映像、インスタレーション、パフォーマンスなどの方法で身体を媒体とした作品を展開。近年の個展に「傘の内側に降る雨」(AntennaMedia、京都、2014)、TWS-Emerging176「不測に向かって放り込む」(TWS本郷、2012)等。「第14回岡本太郎現代芸術展」入選、「トーキョーワンダーウォール公募2011」審査員長賞受賞。

■潘 逸舟 | Ishu Han (二国間交流事業プログラム<メルボルン>、2013年8月~10月滞在)

1987年生まれ。2012年東京芸術大学美術研究科先端芸術表現を修了。共同体を風景として視覚化していくを試みる作品を制作している。近年の主なグループ展に「第16回文化庁メディア芸術祭」(国立新美術館、2013)など。「在地未来」(何香凝美術館、中国、2013)で新鋭賞を受賞。2012年度国内クリエイター制作交流プログラム参加。

■三原聡一郎 | Soichiro Mihara (二国間交流事業プログラム<ベルリン>、2013年7月~10月滞在)

1980年東京生まれ。2011年より、この社会を成立させてきた近代以降の枠組みを越える試みとして空白のプロジェクトを展開中。近年の主な個展に「the world filled with blanks」(クンストラウム・クロイツベルク / ベタニエン、ベルリン、2013)、「空白之界」(關渡美術館、台北、2013)、グループ展に「SOUNDART - sound is a medium of art」(ZKM、カールスルーエ、2012)、「OPEN SPACE 2012」(NTT ICC、東京、2012)等。

トーキョーワンダーサイト 渋谷**■小沢 剛 | Tsuyoshi Ozawa (二国間交流事業プログラム<ロンドン>、2013年8月~9月滞在)**

1965年生まれ。1991年東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了。初期の頃から、他者との関係性の中で様々なメディアを使って制作活動を行う。主な展覧会に、「第6回恵比寿映像祭トゥルーカラーズ」(東京都写真美術館、2014)、「小沢剛 高木正勝 アフリカに行く」(ヨコハマ創造都市センター、2013)、「The Global Contemporary - Art Worlds After 1989」(ZKM、カールスルーエ、ドイツ、2011)等。

■栗林 隆 | Takashi Kuribayashi (二国間交流事業プログラム<ロンドン>、2013年9月~10月滞在)

1968年生まれ。2002年にKunst akademie Düsseldorfを修了。近年の主な個展に「Water > Wasser」(十和田市現代美術館、2012)、グループ展にトーキョー・ストーリー2013「アーティスト」(TWS 渋谷、2013)「Mediations Biennale 2012 Poznam」(Poznam Poland、2012)等。2011年に第七回武蔵野美術大学建築学科芦原義信賞を受賞。

■イルワン・アーメット&ティタ・サリナ | Irwan Ahmett & Tita Salina**(海外クリエイター招聘プログラム、2014年1月~3月滞在)**

インドネシアを拠点に活動するアーティスト・デュオ。共にジャカルタ・インスティテュート・オブ・アート、グラフィックデザイン専攻卒業。社会問題や人々の振る舞いに焦点をあて、公共空間で、ユーモアを含んだ即興的作品を構築する。主な展覧会に「シンガポール・ビエンナーレ」(シンガポール、2013)、「瀬戸内国際芸術祭」(福武ハウス、2013)等。

■パリバルタナ・モハンティ | Paribartana Mohanty (海外クリエイター招聘プログラム、2014年1月~3月滞在)

1982年生まれ。インド出身のヴィジュアル／映像アーティスト。2006年ニューデリー国立博物館修士課程(美術史)修了。主な展覧会に「Rendez-vous 13」(第12回リヨン・ビエンナーレ、リヨン、2013)等。2011年にStadt galerie (スイス・ベルン)のレジデンス・プログラムに参加。アーティストと著述家の3名によるアーティスト・コレクティブ“WALA”メンバー。

【第三期】 トーキョーワンダーサイト 渋谷**■中澤沙央里 | Saori Nakazawa (国内クリエイター制作交流プログラム、2013年4月~2014年3月滞在)**

桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。ヴァイオリンを鈴木亜久里、辰巳明子の両氏に師事。現代音楽シーンを中心に活躍し、R.カンポ、権代敦彦、一柳 慧各氏の作品等、多くの作品の初演を手がけている。近年は、香港、韓国、マレーシア、フィリピン等にも活躍の場を広げている。2010年より「インターナショナル・アンサンブル・モデルン&トーキョーワンダーサイト アカデミー」に参加。

広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

【第1期】



遠藤一郎
夕張でのプロジェクトの様子、2013



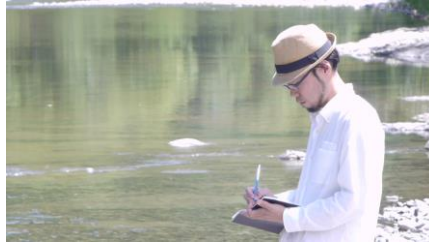
加瀬才子
《Life-time Project》2013、ミクストメディア



永岡大輔
夕張でのプロジェクトの様子、2013



松本 力
夕張でのプロジェクトの様子、2013



mamoru
夕張でのプロジェクトの様子、2013



山本良浩
《Model house》2014、写真



川久保ジョイ
《Anagrams: 'a haiku man cube fish'》2014
写真、紙、インク、切手、封筒



福居伸宏
《B' - 6957》2013、写真 © Nobuhiro Fukui,
Courtesy of Tomio Koyama Gallery

【第2期】



オル太
《ゴースト オブ
モダン》
2013-2014、デ
ジタルビデオ
©OLTA



佐藤未来 《マニアーナ、new wave》
2013、映像、石、煉瓦、タイル、塩



友政麻理子
《お父さんと食事》 2013、ビデオ



中島佑太 ワークショップ「ニッポンの妖怪 |
ニッポン人がついた嘘」の様子、2013



二藤建人
《山頂の谷底に触れる》 2013



潘 逸舟
《オーストラリア》 2013、写真、3×2m



三原聡一郎
《 を超える為の余白》 2013 写真:三原聡一郎



小沢 剛
FT13 イェリネク連続上演
「光のない。(プロローグ?)」
作:エルフリーデ・イェリネク 演出・美術:小沢 剛
2013年11月21日~24日
東京芸術劇場シアターイースト(東京) 写真:片岡陽太



栗林 隆
《Invisible》 2013
コットンにプリント、ホットボンド、映像



イルワン・アーメット&ティタ・サリナ
《AIR BALL》 2014 写真: Rieko Yui



バリバルタナ・モハンティ
《Act the Victim》 2012、インド